

地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.18

「協働」



今月は
小谷英介が
書いています

大山町に カーブスがオープン

「カーブス大山町健康センター」がオープンしました。カーブスは女性向けの健康教室です。9月のオープン時点で会員数は345名と大盛況のスタートを切りました。中山、名和、大山のそれぞれの地区から、多くの女性が健康づくりのために通われています。

大山町は人口が少ないため出店が難しいエリアでしたが、町との共同の取り組みとすることで、実現に至りました。



▶インストラクターが正しい運動方法を指導



▲企業が町と一体になって推進

企画のきっかけ

私も昨年6月から、企画者としてカーブス出店に関わりました。米子のカーブスに通っている母から「腰の痛みが緩和した」「近所であればもっと通えるし、自分以外にも求めている人は多いはず」と聞いたことがきっかけでした。私が町の財政状況を調べていて、医療費の負担増が深刻になっていることを認識したタイミングと重なります。

私はその頃、協力隊に採用されたばかり。「地域おこし」のために何かから手をつけるべきか?ということを考えていました。にぎやかな行事を企画することもしたい。でも、

その前に「健康」と「町の財政」がしっかりしないとどんな活動も続いていかないのではないかと。そんな問題意識から、健康づくりを得意とする民間企業に、町の健康対策事業へ協力してもらおうという企画を思いつき、実現に向けて動き始めました。

新たな「協働」の形

カーブスという大手企業と共同事業ということで、事情をよく知らない人からは「町が企業を呼ぶために大金を積んだのだろう」と言われたこともありました。実際には、町の負担は建物改修費の一部のみで、他の経費はカーブス側が負担しています。つまり、町からの補助金で成り立っている事業ではありません。

今回の事業の特徴は「補助金」のかわりに「人」が動く「協働事業」であることです。町職員も一緒になって知恵を出し、「大山町の皆さんを健康にする」という目標に向かって汗を流します。オープン前に、町職員の方々が、とて

も活き活きとした表情をされていることが私には印象的でした。町と企業の新しい連携のあり方に大きな可能性を感じました。

今回の事業の意義

本町の医療費負担は年により、億単位で増加しています。このままだと、楽しい行事の予算もやがて捻出できなくなってしまうと。大山町をより良い町にするために、皆が運動をして、健康になって、町の医療費を削減する。これが大事です。

今後は、鳥取大学などとも連携して、継続的な運動が町の医療費削減にどう影響するかの研究も進んでいきます。良い結果ができれば、大山町の先進的な取り組みは全国へ広がっていくでしょう。

女性の健康づくりの盛り上がりやきっかけに、我々男性も負けじと運動する習慣を身につけていきたいものです。私も、しばらくサボっていた水泳をそろそろ再開しようと思います。(小谷)